

台風・大雨等により交通機関が止まっているときの対応について

- 1 運転見合わせでJR等が止まっている場合は、復旧するまで駅で待機するか、時間がかかることが予想される場合は、自宅での待機とする。なお、交通機関が復旧次第登校する。
- 2 登校時の危険が予想される場合は、状況を見ながら自宅待機するか登校するかを判断する。なお、安全が確認され次第登校すること。
- 3 JRなどの交通機関が止まっている場合は、学校への電話連絡・問い合わせはしなくてよい。交通情報は学校にも入っているため、JR通学者等が登校できないことは把握できている。
- 4 JRは止まっているが、市電やバスで登校できる場合は、市電やバスの交通手段で登校する。日頃から、発車時刻の確認をして、JRが不通のときの対応策を考えておくこと。
- 5 台風などのあらかじめ交通機関が止まることが予想される場合を除き、学校から休校等の連絡をすることはしない。(休校の場合は、クラスの緊急連絡網やc l a s s iで連絡するとともに、鹿南ブログにも掲載する。) 学校からの連絡がなく交通機関が止まった場合は、生徒本人や保護者が判断しなければならないことになる。無理して登校したが、帰りの便や、帰る手段がないことがないように、よく考えて判断すること。
- 6 交通機関のトラブルに起因する遅刻・欠席は、出席停止扱いになる。遅刻者は、通常遅刻届けを出さなくてはならないが、出さなくてもよい場合は、学校側から連絡する。
- 7 翌日の天候悪化が予想される場合は、天気予報で確認しておき、通常の便より早い便を利用して登校すること。また、途中JRが不通になっても、バスや市電に乗れるよう交通費の準備をして登校すること。
- 8 緊急連絡網を再度確認し、連絡先の変更がある場合には担任に届け出ること。
また、休校等で緊急連絡網により連絡を回す場合、次の人に連絡がつかないときは、その人を後回しにして、その次の人に連絡し、あとでその人に再度連絡すること。
- 9 台風による被害を受けた場合は、台風通過後に登校したときに速やかに担任に申し出ること。なお、通学路付近で危険な箇所を確認した場合も申し出ること。
- 10 台風の接近時は、河川・港・海岸等には絶対に近寄らないこと。